



通年コース第一・二回開催報告

『さあ森林塾、19回目の春!!』

1994年4月、当時の長谷村(現 伊那市長谷)にある保科先生の広葉樹伐採跡地の山林に200本のヒノキを植栽し、森林塾の一年目が

スタートしました。それから毎年春に必ずどこかに植林を行い、植栽地は少しずつですが増えていっています。今までの累積は、本数で8千本余



一ヶ所に五本ずつコナラの巣植え

り、面積で3ha弱になり、わずかな面積とはいえ、植えた木は毎年着実に育っています。樹種はやはりヒノキが多いのですが、時にスギ、またトチやコナラ、ミズナラなどの広葉樹の植栽もありました。さて、19年目の今年、伊那市横山のお寺所有の五畝余りの山林に植栽したのはコナラが百本、ぼつぼつと小雨が降り始めるなかでの作業でした。ヒノキやスギなどの針葉樹と違って、広葉樹の植栽と保育の方法にはこれといった定番が見当たりにません。で、「巣植え」と言う方法を採用してみることにしました。何本かの塊を適当な間隔で植えて、近い将来にはそのうちの一本を残すというもので、今回は五本ずつまとめて20ヶ所で計百本を植え、下刈り時に刈られないようにピンクテープでマークをしました。すぐ北隣もブナを植えた

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路



川島さんの夢は膨らみ、周辺の別荘の方々も大歓迎です。

さて、当森林塾の大きなテーマは「手遅れになりつつある人工林をいかに整備するか」ということです。そのために欠かせない道具がチェーンソー。そして通年コースでは、できるだけ頻繁にチェーンソーを使い、三月修了時には伐倒はもろること、メンテナンスも一通り身に付けてもらいたい。今年度は初回から伐木造材に取り組みました。まったく初めての方もおいででしたが、イントラのアドバイスを受けながら自力で伐倒。基本的に忠実にやれば、初めてでも

何とかなめるものではない。これは、夏の間に伐出の後、冬に復習も一度の復習を行い、春三月に最後のチェンソー実践も計画しています。

通年コース 第一・二回 4月20日(金)

植林・製材所等見学

- 9時30分 植林 伊那市横山。
- 森の見学 「実生で育てる森」 川島さんの説明。
- 11時30分 山小屋にて昼食
- 12時40分 伊那市野底にて森の見学 森林塾で間伐したヒノキ林。野底(被害最先端地)で松くい虫被害状況や薬剤処理の現場状況を見学。
- 13時30分 製材所見学 伊那市手良、向山製材さんにて地域材製材見学。向山製材さんでは少量個人持ち込み引き可能。その際のチェックポイントなどを確認(長さは2mから可)

薪ストーブ店見学 新装オープンしたノースフィールドシヨールームにて薪ストーブの基本的な構造などを聞く。

15時30分 ミズホ鋼機見本市 希望者はナタ・鋸・ヘルメットなどを揃える。山仕事に関する様々な機材や関連商品を見学。営業の片桐さんからチェーンソーについて説明を聞く。



16時30分「金曜サロン」DVD鑑賞 「自分の山の木で家を建てる」プロセスを例に学ぶ。木を使う出口をイメージすることでどのような森を育てるのか各自で構想を膨らませます。

懇親会 島崎先生のお話、改めての自己紹介など。

4月21日(土)

伐木造材

8時40分 KOAパインパークにて、チエーンソーの構造説明。講師によるデモ伐倒。丸太伐り。受口作り。

12時 昼食。島崎先生お話し
13時 伐倒・枝払い・造材
チエーンソーメンテナンス・質疑応答

16時30分 まとめ

参加者/和泉さん、板山さん、大澤さん、金子さん、小林さん、高橋さん

専門お試しコース開催報告

「まずは一本倒してみよう!!」

専門コースのお試し参加は、雨で延期になって開催されたのは4月25日(水)でした。三人の方が参加してくださいました。皆さんほとんど初めてで、まずは

チエーンソーを使うための服装、足回りの説明でした。ドロロンとした曇り空、暑くもなく寒くもなくの山仕事日和、しっかりチエーンソーに慣れ親しんでもらいました。山本さんはもう実践で

も使えるくらい。あとのお二人はもう少しの練習が必要かな。それぞれ二本ずつの伐倒、お疲れ様でした。

専門お試しコース

4月25日(水)

参加者/平井さん、北條さん、山本さん、スタッフ/早川、松岡



講師/島崎先生(特別ご参加)、早川
スタッフ/川島、平林、園田、松岡

OBからの便り

ニホンミツバチを知っていますか



f m 吉田 修さん

1998年、今から14年前に森林塾にお世話になった吉田修と言います。当時の森林塾スタッフは島崎先生、保科先生はじめとして、早川さん、中村さん、藤原さん。いろいろお世話になりました。その年の年末に長野県下伊那郡阿南町の和合という集落に移住し、最初は森林組合でアルバイトしていまし



性格は穏やかで病気にも強い

イヨウミツバチが輸入されると貯蜜量が多いことと、一度気に入った巣箱からは逃去しないことから、ミツバチと言えばセイヨウミツバチのことになってしまいましたが、住んでいる山間



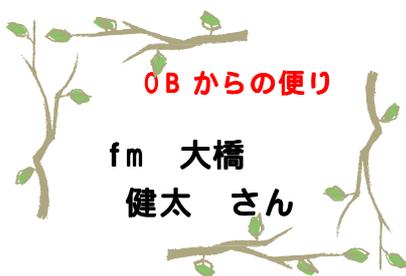
重箱式巣箱

地では、自家用の蜜を取るためにニホンミツバチを代々

た。飯田市、下伊那郡で独立している森林組合は、和合と根羽村の二つだけです。私は現在は田んぼ3反と畑1反、木工の工房で注文家具を製作しています。3年ほど前からニホンミツバチを飼いはじめました。その後改良した巣箱が近隣で評判を呼び、少しずつ売れ始めたので、この春からネットショップ「やまみつや」を開業いたしました。ニホンミツバチは日本に棲息する野生のミツバチのことで、日本書紀の時代から飼われてきました。ところが明治期にセイヨウミツバチが輸入されると貯蜜量が多いことと、一度気に入った巣箱からは逃去しないことから、ミツバチと言えばセイヨウミツバチのことになってしまいましたが、住んでいる山間

OBからの便り

f m 大橋 健太 さん



できます。ネットショップ「やまみつや」のURLは、http://www.yamanitsuya.com/ よろしくお願います。編注：吉田さんは長野県阿南町和合にお住まいです。夏の集中コースに参加してくださいました。

私は関西のとある大学の演習林で働いています。業務は森林の維持管理や実習・研究の補助などを行っています。こう書きますと何でも出来そうなイメージを持たれがちですが、そんなことはありません。私はこの仕事を始めて10年を越えましたが、まだまだ森林作業に関しては出来ないことや知らないことが多く、森林に係わる業務の多様性と奥深さを痛感しています。さらに近年は、演習林の業務内容の変化(森林管理業務から教育研究業務への移行)やベテラン職員の大量退職もあり、森林作業



ナラ枯れ被害(茶色の部分)

に関する技術が十分に引き継がれていない状況に危機感を募らせています。そのような思いや他の諸条件が重なり、KOA森林塾の集中コースを受講しました。講習では伐木時の姿勢やチェーンソーの持ち方、水平に切る意識などこれまでほとんど意識していなかったこと(基本中の基本ですが)を教わりました。また、実際に測樹をして間伐計画を立てるなど、本格的な内容であることに感心しました。さらに通年コースでは樹木識別から測量、保育、集材まで本格的な内容で行われていることを知り、「大学の実習より充実している」という印象を持ちました。是非とも次は通年コースで、と思いつながら数年が経過してしまいました。

最近では、私の勤務する演習林では「ナラ枯れ」と「シカの食害」に悩まされています。ナラ枯れ被害はここ数年急増しています。被害は昆虫(カシノナガキクイムシ)とそれが運ぶ病原菌によってもたらされるので、被害木から昆虫が広がらないように、被害木は伐採して薬剤で処理したり新にしたりしています。被害は太い木ほど遭いやすいので、伐採に苦勞させられますが森林塾で身につけたことを実践して何とか安全第一で作業しております(危険な木はプロに外注しています)。被害が増えた原因の一つが森林(里山)が放棄されて、利用されなくなつたナラの木が太くなり、昆虫のえさが増えることにより、増加したのだといわれています。ナラ枯れ被害もどうやら収まりそうになく、伐採するだけではどうしようもない気がします。被害は関西だけでなく東海北陸地方まで広

がっていて、信州も一部来ています。気をつけていようのですが、気がつけようがないです。とりあえず守りたい木が生きているうちにビニールなどを巻き付けるのが比較的效果があるようです。シカの食害(天然林の)も問題になっています。森林の下層植生が食べられ、次世代の植物が育たない状況になっていきます。特にシカの好む種は消失したりして植生が変化し、将来的には生態系にも大きな影響を与えるのではないかと危惧されています。こちらも人が山に入らなくなつた(狩猟の減少や山村の無人化など)ことが原因の一つだといわれているようです。



シカの食害で下層植生がない

このような問題が各地で起こっていることから、人の営みの変化が人工林だけでなく天然林にも影響を与えていることを肝に銘じ、生態系の一員である「ヒト」としての生き方を考え直さなければならぬと思う今日この頃です。
編注：大橋さんは2007年秋季の集中コースにご参加
次回以降の予定
通年コース第三・四回
5月11・12日(金・土)
樹木分類・測量
11日(金)は樹木分類。野山に生えている木の名前が分かつたら楽しいな。図鑑で調べて名前を知ろう。ではどうして調べるのか。午後4時30分から「金曜サロン」DLの木平さん講演。地域材の利活用の可能性を学びます。12日(土)は測量です。そしてそれを図面に落とす、面積を計算する、等高線を入れる。一度習えば、自分の家の敷地や山林も測れます。両日とも島崎先生の山小屋に集合。山野を歩ける格好。関数電卓、鉛筆(またはシャーペン)必要。
測樹は森林調査の一環で、樹木の種類、大きさ、数量などの調査です。電卓必要。山小屋集合です。2日(土)の木工は箕輪町のKOA社内で行います。4月に製材した材で日用品を製作します。

測樹・木工
6月1・2日(金・土)
通年コース第五・六回

リレー通信

自分の中の変化
和泉 奎樹

現在四月二十一日二十時五十六分、微かな筋肉痛を感じながら、KOA森林塾での二日間を振り返り筆を進めています。

まず、私が本年度のKOA森林塾に参加した経緯から説明致します。

私の両親は共に山間地の出身であり、親戚の多くが山村で生活しております。その中には山を所有している者、林業、農業に携わる者も少なからずおります。そのため幼少のころより山間地での暮らし、山林での遊びといったことに触れる機会が多くありました。私の父も昭和三十年代に林業に就いており、その当時の経験談などよく聞かされました。そういったことが理由なのか、以前より山村での暮らし、農林業に対する漠然とした興味や憧れを持っていました。日々の仕事、生活に追われる中でそれ

らは全く現実味のないものでした。
昨今、山林や農地の荒廃、山村や農村の過疎化といった社会問題が耳目を集めています。私の自宅周辺では市街化の波による住宅環境の悪化が年々進んでいます。その時、自分の中で漠然とした憧れでしかなかった山間地への移住、林業や農業への就業の可能性を見極める良い機会だと思い、まずはその第一歩をKOA森林塾に託したことが参加の理由です。

今回のKOA森林塾通年コース第一回目の講座は、自分にとって大変貴重で有意義な体験であったのは勿論のこと、とにかく「楽しかった」の一言が正直な感想です。事務局のスタッフの方も様々なカリキュラムを組み込んで、塾生を厭きさせないスケジュールを作成して下さい、次回以降の講座も楽しみにです。

本年度の塾生は総勢六名、事務局の方のお話では、例年と比較して少ない人数、その分少数精鋭で内容の濃い講座になるだろう。とのことでした。「精鋭」かどうかは別として内容の濃い講座は望むところでありませう。唯一気を付けなければならないのは災害です。以前から森林での作業に危険が多いこ



とは認識しておりましたが、今回、チェーンソーの実習の際に、頭のとっぺんからつま先まであらゆる危険に囲まれていること、自らの不注意が他人をも巻き込むことを改めて思い知りました。

確かに危険の多い作業ではあります。危険を恐れるあまり萎縮してしまつてはあまりできません。プロである講師の先生方の作業を見てみると、ポイントとしての危険の認知と空間としての危険の認知ができており、したがって無駄な動きがなくなる、ゆえに災害の可能性が少なく、という一連の流れのようなものを感じました。「森林での作業を侮るなかれ、されどいたずらに恐れるなかれ」

講師の先生方のレクチャーは懇切丁寧で安心して受講できました。加えて、実戦経験豊富なプロの立ち居振る舞いをじっくり観察することで学び取れることも数多くあることを実感しました。

余談になりますが、私の中には幼少の頃よりイメージとして持っている山師の姿があります。まず一番目は地下足袋、二番目に腰鉈、鋸、とび、その他道具類、三番目が手拭い(タオルはNG)、そして四番目が合わせめんばです。講座二日目の昼食の際、この四つのアイテムすべてを装備した、講師の川島先生を目にした時は、「うーんカッコイイ」の一言につきましました。もちろん、豊富な知識、高度な技術、長年の経験といったバックボーンがあつてこそこのカッコよさであります。

今回の講座ではミズホ鋼機さんにて鉈と鋸とヘルメットを注文しました。一般的に世の男性の多くは物心がつくと道具、工具、刃物、武器などに本能的に興味を抱きます。私もご多分に漏れずその輩の一人で、鉈一本の購入でかなり気分の高まりを感じました。さすがにチェーンソーの購入は時期尚早ですが、少しずつ道具を買い揃えていきたいと思えます。

話を戻します。今回、たった二日間、森林を見、森林に触れただけですが、あきらかに自分の中に変化があつたことを感じました。それというのは、講座を終えて自宅への帰途の車中でのことです。私は普段、前方、それもかなり先の方を見ながら運転します。ところが今日は、無意識のうちに道路脇の山林を観察している自分に気づき、苦笑いしてしまいました。(わき見運転というほどのものではありません) 来週末あたり、花見を兼ねて山にでも行ってみようと思つています。今までは違ったものが見えるかもしれません。

コラム "島さん"の 言挙げす

No.1 「戦後林政の軌跡」

皆様、講師の先生方、そして同期塾生の皆様との出会いを心より嬉しく思い、また感謝しております。これからの講座を通じてそれぞれが良き方向に進めることを望みます。宜しくお願い致します。

の緑化と将来にわたる良質な森林資源の培養を図るべく、昭和二十四年には「造林臨時措置法」を発足させ、伐採跡地の人工林化を強力に推進することとし、民有林を対象とした造林補助金制度(補助率は事業費の40%にも及び優遇措置が講じられた)も発足させ国民的な造林意欲の高揚を促した。

こうした経緯のなかで、国産材価の上昇率が昭和四十年代の初め頃までは一般物価や賃金の上昇率を上回ったことや、相対的に豊富であった農村労働力事情などとも重なって、年々の造林面積は35万〜40万haもの驚異的な成果を挙げ、戦後わずか十数年に過ぎなかつた人工林率(全森林面積に対する人工林面積の割合)は昭和四十年代半頃にはすでに30%の大半を超え、その後の漸増分と合わせて今日一千万ha・40%余りにもおよび、歴大な人工林の造成を果たしてきた。

戦後六十年余、波乱に満ちたわが国経済・社会のなかで、林業界もそれなりの役割は果たしてきたと思われ、その時々になすべき事柄の積み残しが目立ち、かつての乱伐による山林の荒廃とは裏腹に、極度な手入れ不足によつてひ弱になつた森林が全国的に累積し、未曾有の

高蓄積を抱えながらその対応に苦慮している。改めて取り組むべき主要な課題を挙げておきたい。

林家の自主管理能力の向上も含めて恒常的にわが国森林の維持管理(伐出を含む)を担う優れた林業労働力20万〜30万人の確保

国産材価の低迷が労働所得に及ばないような、所得の保障(健全な森林は国民の財産)

なおこの他いろいろな課題については、順次話題を提示しながら同じ土俵で勉強していきたい。 島崎洋路

あわりに
今年度は地元力を学ぶ「金曜サロン」を数回実施します。7月13日(金) 16時半、グリーンファーム小林史磨さんの「地域資源活用」のお話と蕎麦打ちです。飛び入り歓迎・事務局の松岡まで



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp